| 科目名: 精神看護学概論 | 必修 | 1単位(45時間) |
|---|---|---|
| (Introduction to Psychiatric Nursing) | | |

履修年次/時期: 2年次　前期　　授業形態: 講義

主担当教員: 中村 仁志

主担当教員詳細: 精神科臨床実務経験15年、本学における精神領域の担当、学外での精神保健活動などから 精神障害というものを多角的に捉え、学生が精神疾患や障害をもった人を愛しむ看護を実践できるように授業を展開 していく。

担当教員名: 木村 幸代

**学修目的**

人間の健康は、身体上の疾患のみならず「こころ」にもある。現代社会では、急激な社会的変化に伴い精神的ケアを必要とする人々が増加傾向で誰もがなりうる可能性を秘めている。本科目では、心の健康の維持・増進とケアを実施するにあたり必要な基礎的知識を身に着けることを目的とする。また、精神障碍者に関わる看護の歴史的背景を踏まえ倫理や権利を尊重できる医療人としての資質を身につける。さらに、社会から精神看護に対して求められていることを考えその役割と機能を理解する。

関連するCP: CP1,CP3,CP5　　科目No. KNI-223

**この科目が目的としているDP**

| | | |
|---|---|---|
| 1. 医療専門職としての倫理観を有する。 | (1)生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。 | ○ |
| | (2)医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。 | ○ |
| 2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。 | (1)教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。 | ○ |
| | (2)専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。 | ◎ |
| | (3)社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。 | ○ |
| 3. 健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。 | (1)多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。 | ○ |
| | (2)優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。 | ○ |
| | (3)看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。 | ○ |

◎: この講義・演習・実習と最も関連があるDP
○: この講義・演習・実習と関連があるDP

**到達目標**

①精神看護学における看護師の役割と機能について説明できる。
②精神看護の理解と実践に必要な理論について述べることができる。
③精神看護に関する医療サービス提供形態と地域を含めた患者環境を説明できる。
④精神看護の視点から、人権擁護や倫理について説明できる。
⑤社会から求められている精神看護への期待を述べられる。

**授業概要**

人間のすべてのライフサイクルにおける心の健康に焦点を当てて、心の働きを知るための理論や方法、心の健康の維持・増進を図るための援助方法について学ぶ。

**評価方法**

学期末試験:80%
提出物・授業参加度:20%
課題に対するフィードバックは掲示で行う。

**予習・復習時間**

【予習】1.9時間
【復習】1.9時間

**教科書**

a.新体系看護学全書 精神看護学概論/精神保健 精神看護学①(メジカルフレンド社)
b.新体系看護学全書 精神障害を持つ人の看護 精神看護学②(メジカルフレンド社)

**参考書**

全人的視点にもとづく精神看護過程 第2版 (医歯薬出版株式会社)

**オフィスアワー 連絡先**

中村 仁志　9:00～17:00　第3号館3階研究室
h.nakamura@kdu.ac.jp　不在時はメールでお願いします。
木村幸代　9:00～～17:00　3号館3階研究室　s.kimura@kdu.ac.jp

| 実施回 | 第1回 | 実施日 | 2026/04/10 (金) | 時限 | 1 | 班 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 【精神看護の成り立ちと心（精神）の理解】<br>1. 精神保健医療福祉の歴史と精神看護の役割<br>①世界における変遷と課題<br>②日本における変遷と課題<br>③精神疾患における日本と世界の比較<br>④司法精神医療と看護<br>2. 人間の心の構造と諸活動<br>①脳と心<br>②人格と器質<br>③意識と自我 | 予習 | 教科書aP6WHOの健康の定義、教科書a.P20の日本精神科看護協会の定義を読んでおく。 | | | | |
| | | 復習 | 現代社会における精神障害の特徴と課題を確認しておく。<br>脳と心の関係を確認する。特異な単語の意味を確認する。 | | | | |
| | | キーワード | 社会病理、精神的健康、精神看護の役割、認知、人格、知能、意識、自我 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 担当 | 木村 | | | | |

| 実施回 | 第2回 | 実施日 | 2026/04/21 (火) | 時限 | 3 | 班 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 【心の健における対象理解】<br>1. 精神看護における対象<br>①社会構造から捉えた対象　②人間の発達から捉えた対象<br>2. 精神看護の対象理解おける理論<br>①精神分析と精神力動理論　②対象関係論<br>・家族と家族の中にいる個人<br>・社会の中の集団と個人<br>③エリクソンの発達理論　④ボウルビーの愛着理論<br>⑤コフートの自己心理学 | 予習 | 教科書a.P28～の精神（心）の捉え方を読んでくる。<br>なぜ、理論が対象理解や支援に必要なのか考えておく。 | | | | |
| | | 復習 | 精神看護の対象は誰かまとめる。<br>どの様に対象を理解するか学んだ事を活かし自分のことばでまとめる。 | | | | |
| | | キーワード | 基本的信頼、関係の構築、発達理論 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 担当 | 中村 | | | | |

| 実施回 | 第3回 | 実施日 | 2026/04/24 (金) | 時限 | 1 | 班 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 【心の健康への支援と理論①】<br>1. 危機<br>①危機（クライシス）とは　②カプランの危機理論<br>③アギュレラの危機理論　④フィンクの危機理論<br>⑤危機（クライシス）の予防<br>2. ストレス<br>①ストレスとは　②ラザルスのストレス理論<br>③セリエのストレス理論<br>④ストレスとしての心的外傷（トラウマ） | 予習 | エリクソンの発達理論を基に危機について考えてくる。<br>教科書a.P150の「危機とは」を読んでくる。 | | | | |
| | | 復習 | 精神障害をもつ人への看護の事例と理論を結び付けて考える 。<br>ストレスコーピングの意味を確認する。疾患としての心的外傷の基準を覚える。 | | | | |
| | | キーワード | シェアド・ディシジョンソン・メイキング、タイダルモデル<br>カプラン、トラウマ、PTSD、ASD、ホメオスタシス、 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 担当 | 木村 | | | | |

| 実施回 | 第4回 | 実施日 | 2026/05/08 (金) | 時限 | 1 | 班 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 【心の健康への支援と理論②】<br>1. 心の健康維持・回復に関する理論<br>①コーピングとは<br>②コーピング方法<br>③ロイの適応理論<br>④レジリエンス<br>⑦リカバリ（回復）<br>⑧ストレングス（強み・力）<br>⑨エンパワメント | 予習 | 教科書b.P190の精神障害をもつ人とのかかわり方を読んでくる。 | | | | |
| | | 復習 | 自分のタイプを考える。<br>関わりの中のケアの必要性を確認する。 | | | | |
| | | キーワード | セルフマネジメント、全人的適応システム、自立性の尊厳、コミュニケーション技法 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 担当 | 木村 | | | | |

| 実施回 | 第5回 | 実施日 | 2026/05/15 (金) | 時限 | 1 | 班 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 【精神看護における医療環境と治療】<br>1. 医療環境と看護<br>①入院・外来　①入院形態の種類<br>②治療環境（閉鎖病棟・解放病棟）<br>③安全の保障（隔離・拘束）　④処遇と権利擁護<br>①精神科外来看護　②精神科訪問看護<br>③精神科デイケア・ナイトケア<br>2. 治療の種類<br>①薬物療法　②精神療法（個人・集団）<br>③心理教育的アプローチ　④認知行動療法<br>⑤電気痙攣療法　④精神科リハビリテーション | 予習 | 教科書a.P252精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇を読んでくる。<br>教科書b.P148～185を読み主な治療法を確認する。 | | | | |
| | | 復習 | 入院中の患者の安全について考えてみる。<br>治療の種類とその効果を確認する。 | | | | |
| | | キーワード | 隔離・拘束、権利擁護、ホスピタリズム、QOL、タイダルモデル、 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 担当 | 中村 | | | | |

| 実施回 | 第6回 | 実施日 | 2026/05/22 (金) | 時限 | 1 | 班 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 【地域生活を支える社会資源】<br>1. 地域精神保健　①保健所の役割　②精神保健福祉センターの役割<br>2. 精神障害者福祉<br>①精神科に対応した地域包括ケアシステム　②アウトリーチ<br>③地域連携（病院・保健所・市町村・精神保健福祉センター）<br>④精神障碍者福祉手帳<br>3. 障碍者総合支援法によるサービス<br>①福祉サービス（介護給付、訓練給付）　②相談支援　③自立支援医療<br>④地域生活支援事業　⑤広域支援　⑤人材育成<br>4. 社会資源の活用とマネジメント　①精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的な考え方　②セルフヘルプグループ・家族会 | 予習 | 教科書b.P352「地域生活の再構築と社会参加」を読んでくる。 | | | | |
| | | 復習 | 社会復帰・社会生活における必要な支援について確認する。 | | | | |
| | | キーワード | 障害者総合支援法、地域生活、地域移行支援、自立生活、地域定着 | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 担当 | 木村 | | | | |

| 実施回 | 第7回 | 実施日 | 2026/06/05（金） | 時限 | 1 | 班 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 【心の健康を保つ為の援助の基本】<br>1. 精神看護の対象との援助関係の構築　①信頼関係づくり<br>②対象者と看護師の関係性の発展と終結　③プロセスレコードと<br>その活用　④共同意思決定と共同創造（コプロダクション）<br>2. 日常生活における援助の基本<br>①食事・水分の摂取　②呼吸・排泄　③清潔と身だしなみ<br>④活動と休息　⑤対人関係<br>3. 身体合併症のある人の看護<br>①心のケアとフィジカルアセスメント　②リエゾン精神看護<br>4. 心のケアを受ける人の家族への看護<br>①家族のストレスと健康状態のアセスメント<br>②家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント<br>③家族システムのアセスメント　④家族への教育的介入と支援<br>⑤患者-家族関係の調整<br>5. 社会復帰・社会参加への看護<br>①リハビリテーションの概念　②国際生活機能分類（ICF）<br>③退院に向けた看護<br>6. 事例を基に必要な支援を考える | 予習 | 人間関係論の講義で習った内容を復習しておく。<br>基礎看護学で学んだフィジカルアセスメントを確認してくる。<br>患者の家族が抱えているストレスについて考えてくる。<br>教科書b.P15「精神障害と共に生きる」を読み精神障害をもった人の社会復帰について考えてくる。 | | | | |
| | | 復習 | 身体合併症のある患者の看護におけるポイントを確認する。<br>セルフケア援助における看護のポイントを明確にする。<br>なぜ家族の中の個が重要なのか確認する。集団の必要性を確認する。<br>社会復帰・社会参加における看護師の役割を考える。 | | | | |
| | | キーワード | パーキンソン症状、アカシジア、ジストニア、悪性症候群、睡眠障害、ストレングス、ABCDEアプローチ、転倒・転落アセスメントスコアー、コンサルテーション、安全な距離、見捨てられ不安、家族システム、アディクション、ナラティブ、グループダイナミクス、リカバリ、WRAP | | | | |
| 授業形態 | 講義,演習 | 担当 | 中村 | | | | |

| 実施回 | 第8回 | 実施日 | 2026/06/05（金） | 時限 | 2 | 班 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業計画 | 【心の健康を保つ為の援助の基本】<br>1. 精神看護の対象との援助関係の構築<br>①信頼関係づくり　②対象者と看護師の関係性の発展と終結<br>③プロセスレコードとその活用<br>④共同意思決定と共同創造（コプロダクション）<br>2. 日常生活における援助の基本　①食事・水分の摂取<br>②呼吸・排泄　③清潔と身だしなみ　④活動と休息　⑤対人関係<br>3. 身体合併症のある人の看護<br>①心のケアとフィジカルアセスメント　②リエゾン精神看護<br>4. 心のケアを受ける人の家族への看護<br>①家族のストレスと健康状態のアセスメント<br>②家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント<br>③家族システムのアセスメント　④家族への教育的介入と支援<br>⑤患者-家族関係の調整<br>5. 社会復帰・社会参加への看護<br>①リハビリテーションの概念　②国際生活機能分類（ICF）<br>③退院に向けた看護<br>6. 事例を基に必要な支援を考える | 予習 | 人間関係論の講義で習った内容を復習しておく。<br>基礎看護学で学んだフィジカルアセスメントを確認してくる。<br>患者の家族が抱えているストレスについて考えてくる。<br>教科書b.P15「精神障害と共に生きる」を読み精神障害をもった人の社会復帰について考えてくる。 | | | | |
| | | 復習 | 身体合併症のある患者の看護におけるポイントを確認する。<br>セルフケア援助における看護のポイントを明確にする。<br>なぜ家族の中の個が重要なのか確認する。集団の必要性を確認する。<br>社会復帰・社会参加における看護師の役割を考える。 | | | | |
| | | キーワード | パーキンソン症状、アカシジア、ジストニア、悪性症候群、睡眠障害、ストレングス、ABCDEアプローチ、転倒・転落アセスメントスコアー、コンサルテーション、安全な距離、見捨てられ不安、家族システム、アディクション、ナラティブ、グループダイナミクス、リカバリ、WRAP | | | | |
| 授業形態 | 講義,演習 | 担当 | 木村 | | | | |